

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第9号 平成29年9月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9408 (直通)

平成29年7月20日開催の武蔵野市農業委員会総会において会長に選出されました。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

このたびの改選は、従来の公選制が廃止され、各地区農業生産組合等から推薦された農業者10名と公募市民4名の計14名が、市議会の同意を得て、邑上市長から農業委員に任命されました。都市農業を取り巻く環境は厳しくなる一方ですが、都市農業振興基本法が施行され、国や地方公共団体が貴重な農地を保全するための制度改革を進めています。私も井口前会長の後任として、都市化が進む武蔵野市の中で営まれている「農業」をより多くの皆様に知っていただき、次世代につなげていくための活動に力を入れてまいります。

また、市議会との連携は必要不可欠であることから、8月に後継者対策など農家の直面する切実な課題について、総務委員会委員と意見交換の機会を設けました。今後とも関係機関とのコミュニケーションの充実を図りながら、農地保全および農業者の経営改善支援に向けて、農業委員一同、積極的に取り組んでまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。



武蔵野市農業委員会会長 榎本 一宏

農業委員改選



新農業委員紹介

後列左から桑津昇太郎、高橋嘉晴、櫻井真二郎、榎本英明、田中武徳、高橋宏通、榎本清一、船木忠秋

前列左から大谷壽子、齋藤久枝、田中恒男会長職務代理、榎本一宏会長、大坂新一、田邊安輝子

(敬称略)

農業委員会の業務

農業委員会は、農業委員会等に関する法律第6条に規定する法令業務のほか、以下の活動を行っています。

1 法令業務

農地利用状況調査・農地の転用・権利移動などの許認可・生産緑地や相続税等納税猶予制度に関する事項を管理する農地台帳の整備等

2 農地等の利用の最適化の推進

生産緑地の追加指定や利用の促進・担い手の育成など

3 農業経営の合理化や法人化の推進

農業経営の法人化・家族協定・農業者年金の推進、簿記帳など経営支援

4 調査活動

農産物生産状況調査をはじめとした調査活動

5 情報活動

農産物品評会・農家見学会の開催、農業委員会だよりの発行などの情報発信・収集活動

武蔵野市長・市議会議長に意見書を提出

新体制となった農業委員会では、7月21日に邑上市長・本間市議会議長に面会し、榎本会長・田中会長職務代理者の就任挨拶の後、生産緑地の下限面積を500㎡から300㎡に引き下げる条例の早期制定を要望する意見書を提出しました。



※条例改正案は11月下旬開催の第4回市議会定例会に上程予定です。

▲左より邑上市長、榎本会長、田中会長職務代理

第6回 夏野菜品評会開催

例年は、トマト部門、なす部門など品目ごとに審査が行われていましたが、今年度からは『審査日に畑で栽培している夏野菜なら何でもOK! ただし、根菜類を除く』と募集方法を変更したところ、8品目19点の応募がありました。厳正な審査の結果、下記の方が最優秀賞となりました。

●立毛審査 6月28日(水)

審査員が各農家の畑へ行き、審査しました。

<審査結果>

受賞者名	受賞品目
高橋 政孝	なす、きゅうり
井口 義一	とうもろこし、トマト
名古屋 和宏	なす
田中 武徳	なす
大坂 新一	とうもろこし

(敬称略)

※立毛とは、三省堂大辞林で、「田畑で生育中の農作物。主として稲についていう。」とあり、米の品評会で稲穂の毛がピンと立った生育状況を審査するところから、野菜についても、畑で審査する手法を立毛審査と呼びます。

インタビュー

去年は4本仕立てでしたが、混み合ってしまったので、今年は3本仕立てに戻し、フラワーネットを縦に使用しました。更新剪定はしないで11月まで普通の剪定をしながら収穫しています。



武蔵野市長賞 なす 高橋 政孝さん

◀ミニトマトの審査中

畑の管理状況や作物の仕立て方、病害虫がついていないかなど生育状況を審査しました。

●展示・試食 7月3日(月) 市役所1階



夏野菜品評会会場(市役所1階ロビー)では、入賞した夏野菜の展示と開会セレモニーが行われ、地産地消をPRしました。(右より)榎本農業委員会会長、邑上市長、本間市議会議長、大坂JA東京むさし武蔵野地区筆頭理事



正面玄関前では、夏野菜の試食を行いました。試食では、トウモロコシが大人気。今年はフルーツのように甘いミニトマトも登場!



JA東京むさし武蔵野地区青壮年部によるほおずき市・市内産野菜の直売会も同時開催。6月中旬より4週連続で毎月曜日に開催しました。

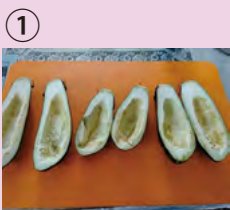
市内産野菜をめしあがれ~

なすとツナの包み揚げ

簡単!
子どもたちに大人気!
おつまみにも最適!

○材料

なす4本、ツナ缶1缶、卵1個、小麦粉、パン粉適量



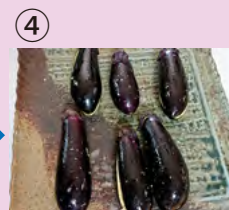
① なすを縦半分に割り、中味をくりぬく。



② 中味をみじん切りにし、ツナ缶と混ぜ合わせる。



③ ②をナスの中穴に詰める。



④ 二つを合わせ、小麦粉、卵、パン粉をつけて油で揚げる。



早速作ってみよう!



できあがり。食べてビックリ、中からツナが…。丸かじりでお試しあれ。揚げたては熱い汁が飛び出すので注意!

「家族で体験 大根づくり」

吉祥寺北町3丁目の田中恒男さんの畑では、毎年開催されるMusashinoごちそうフェスタにむけて、『家族で体験大根づくり』に取り組んでいます。

今年は、8月27日(日)に種まきが行われ、11月23日(木・祝)に東急百貨店北側広場において、100本の大根を販売予定です。詳しくは、主催の武蔵野商工会議所☎0422-22-3631へお問い合わせください。

▼種まき



1穴に3粒ずつ種をまきます。

▼寒冷紗で養生中



▼おろぬき(間引き)



3週間後、元気のよい1本を残して、残りの2本をおろぬきます。おろぬいた大根もおいしく食べられます。

インタビュー

参加者から

大根をぬくのがおもしろかったです。
大根を売るときは、重くてたいへんだったけど、買ってもらったとき、うれしかったです。
田中さんに大根のしゅるいが「夏つかさ」と教えてもらい、いろいろなしゅるいがありました。
また参加したいです。

※販売の収益金は、東日本大震災の復興・復旧支援を目的として寄付されます。

▼販売



会場では、子どもたちが販売員として大活躍。

▼収穫



立派な大根が収穫できました。

イベントカレンダー (29年度下半期)

イベント名	時期	場所
武蔵野の“農”風景に写ッター！ 農業写真展	11月6日(月)～11月10日(金) 11月12日(日) 11月13日(月)～11月24日(金)	市役所1階ロビー 農産物品評会会場(市役所北側広場) JA東京むさし武蔵野支店
農産物品評会	11月12日(日) 展示 午前10時～正午 即売会 午後1時～ (花は11時からの予約販売)	市役所北側広場
フレッシュサラダ作戦	11月23日(木・祝) 11月25日(土) 11月27日(月)	ごちそうフェスタ会場(東急百貨店北側広場) 境南ふれあい広場公園(武蔵野プレイス前) 市役所正面玄関脇テント
農家見学会	11月18日(土)	市内農家
うどん品評会(うどんの即売あり)	2月中旬	JA東京むさし武蔵野支店

※9月現在の予定です。詳しくは市報・市HPでご確認ください。



市内には農家が営む約40箇所の直売所があり、共同直売所としてJA新鮮館があります。第9号では、庭先直売所を中心に活躍する農家を訪ねました。

土屋 正孝さん (境5丁目在住)



江戸時代より当地に構えた庄屋のお家柄を代々受け継ぎ、6人兄弟の長兄として子どもの頃より畑に出て、父親を手伝いながら一通りの農作業を行ってきたので、手順は「体が覚えている」と語られていました。

農業高校を卒業後、サラリーマンを経て、定年退職後に本格就農されました。その後、JA東京むさし武蔵野地区筆頭理事や農業委員を務め、(一財)内田農業振興会の農業功労者表彰も受賞されています。

自宅前直売所の新鮮野菜は近所でも美味しいと評判です。

夏は朝5時前から、冬は日の出から日没まで畑仕事をこなし、収穫を楽しみに、多品目の野菜を栽培しています。

10月の誕生日で82歳になりますが、年に一度は世話役として群馬県の榛名山へ嵐除け祈願に出かけています。

「野菜が上出来だとやはり嬉しい」と微笑みながら答えていただきました。

元気の秘訣は、毎日の規則正しい生活に尽きると実感しました。

名古屋 和宏さん (関前5丁目在住)

和宏さんは大学卒業後、代々続く農業を引き継ぎ、今年で33年です。

20代の頃イギリス人の友人に勧められて始めたルバーブ栽培は、市外からも買い求めるお客様が絶えません。

仲間からマニアックと言われるほど、常に新しい品種や珍しい作物の研究に取り組み、冷凍球根のアイスチューリップの育成や電照栽培など、興味のある技法を積極的に取り入れています。

昨年からは受け入れ始めた援農ボランティアの皆さんのお陰で「もうひと手間」をかけられる気持ちのゆとりができたとのこと。

相棒のメンフクロウが見守る中、「どうせやるなら楽しくやりたい!」と、新しいチャレンジに夢がふくらみます。

野菜担当のお母様(貴代江さん)と二人三脚で耕す「うどばし農園」の未来は明るい。



▲名前はフクザエモン

編集後記



編集委員のメンバーが新しくなりました!

新編集委員一同、引き続き“農”に関するイベントや生産者の紹介等の情報提供をはじめ、さらに親しみやすい紙面作りをめざし、市民と農業者をつなぐ情報発信に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。第9号発刊に当たり、関係各位にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。

後列左より
高橋嘉晴・大谷壽子・榎本清一・田邊安輝子
前列左より
櫻井真二郎編集長、田中恒男前編集長

農業委員会だよりの感想や今後取り上げてほしい記事などありましたら、農業委員会事務局 Tel. 0422-60-1833までお寄せください。